国交労組

より多くのなかまを職場で迎えよう

2020年３月20日号
第189号
毎月２回５日・20日発行

発行所
東京都千代田区霞ヶ関２の１の３　国土交通労働組合
電話(03)3580-4244　ＦＡＸ(03)3593-0359
ＵＲＬ：http://kokkoroso.or.jp/
発行者：安藤　高弘
１部20円（組合員の購読料は組合費に含む）

2020年３月20日　国交労組　第189号（通巻1345号）　昭和37年12月３日　第三種郵便物認可

全国一斉ポテッカー行動から新たななかまを迎える準備をすすめよう！

国土交通労組は春闘期のとりくみとして、定員合理化による職場の体制不足の解消や長時間過密労働の是正、定員外職員の均等待遇の実現などを求め奮闘してきました。

４月期は新規採用者が配属されます。すべてのなかまが安心して働ける職場環境を労働組合としてつくりあげるためにも、本部作成の組織拡大グッズや各支部・分会における旺盛な組織拡大のとりくみによって新規採用者を新たななかまに迎え入れ、ともに職場環境の改善をめざすとりくみをすすめましょう。

職場内の課題いま一度確認

春闘においては、官民共闘による賃金底上げや体制拡充、均等待遇の実現、定年延長問題などについて各職場内で意志統一し、当局との交渉で要求書を提出するなどのとりくみをすすめてきました。職場内だけでは改善できない課題であっても、私たちの要求を当局に理解させるとともに、本省への上申や権限を持つ者に働きかけを行わせることが重要です。さらに、こうしたとりくみを機関紙などによって、職場内に知らせることは国土交通労組への理解と結集を高めるために不可欠です。まだ統一的な行動が行えていない職場では、しっかりととりくみに結集しましょう。交渉は組合だからこそ職場環境の改善を強く訴えられる場です。組合員全員で要求を構築し、改善を求めていきましょう。

各種ハラスメント、定員外職員や障がい者雇用の不当な扱い、両立支援・母性保護制度の利用促進など、職員のため制度であっても、職場によって取り扱いが間違っていることも多々あります。マイナンバーカードの取得についても、新規採用者に対して強制ととられない適切な説明がなされているか注視する必要があります。国土交通労組として職場状況を点検し、職場内で解決できる問題はすぐにでも所属長交渉で改善を求めましょう。

要求実現へ組織を強く大きく

私たちの「働き方」には様々な問題があり、国土交通労組は一つひとつの課題を解決するため、とりくみをすすめています。社会的に労働組合への関心が薄れるなか、職員が減り、さらには長時間過密労働により、働くだけで精一杯になっている状況もあります。こうした状況を打開するためには、より多くのなかまの声を結集させる必要があり、そのためにも、職場内外のなかまとの交流やまなび、あそびなどの楽しい企画などを検討していくことも必要です。

３月23日の到着を目途に、本部から各職場へ組織拡大関係のグッズを送付しました。組合加入をすすめるうえで、これまでの組織拡大の好事例や労働組合に関心を持ってもらう手法を載せた手引きとともに、国土交通労組を紹介するパンフやポテッカーも送付しています。ぜひ声かけのきっかけとして有効活用してください。特に労働組合が職場にあることを示すことは非常に重要な組織拡大の土壌づくりであるため、３月23日に組織拡大のキックオフとして、全国の職場で一斉に張り出す全国一斉ポテッカー掲示行動を提起しています。あわせて、本部や各支部・分会で発行している機関紙などを張り出せば「国土交通労組」の文字が目にとまるとともに職場環境の改善をめざし、ともにがんばろう、ということがひと目でわかる掲示になると考えています。

そのうえで、まずは対話からはじめ、素直に自分が感じている労働組合の必要性となかまになってほしいという想いを伝えることが極めて重要です。新規採用者が配属された際は、安心して働けるよう組合員全員で迎え入れるとともに、労働組合の活動には楽しいこともあり、職場でつらいことがあった時には労働組合として、なかまとして支えあえることを伝えていきましょう。

新しいポテッカーも登場、職場に国土交通労組を示そう！

明日へ

東日本大震災から9年を迎え、福島の帰還困難区域を通過する常磐線は不通区間の再開により駅周辺の避難指示を順次解除して利用が可能となった。三陸鉄道も昨年の台風19号により一部区間が不通であったがこちらも復旧し、住民の足が再び確保された▼災害からの復興がかたちとして見えてくる一方で、かたちが見えない新型コロナウィルスが日本全国を感染拡大で覆い尽くそうとしている。拡がりがとまらなければ、マスクやトイレットペーパー不足だけではすまないだろう▼世界では各種プロリーグが相次いで開催しないことを決めて拡大抑制に転じている。国内も早々に無観客試合にして中継によりファンに「元気」を与えようとしている。しかし政府は、東京オリパラをどうしても開催したいようだ。であればもっとやることあっただろうと国民は思っているはずだ▼今年も桜前線が日本を縦断するが、国民の心はいま複雑な想いで桜をみているのではないだろうか。そのような不安を払拭して、元気な日本を取り戻したいという全国民の願いに政府はきちんと向き合うべきだろう（ゴトケン）